

ジャパンラグビートップリーグの現状と観客動員数に影響を与える要因についての研究

Research on the Present Situation of Japan Rugby Top League and the Factor Influencing Spectator Number

1K06B801

市川 雅恵

指導教員 主査 間野義之先生

副査 木村和彦先生

【諸言】

日本にラグビーが入ってから 110 年が経過し、今日まで発展してきた。現在では世界一のチーム登録数、世界で 5 番目の選手数であり、ワールドカップには過去 5 大会すべてに出場している。昨今の少子化の影響を受けながらも、最近では、ラグビーを楽しむ小学生が増え始めてきた。昨年「タグラグビー」が、文部科学省から発表された新しい学習指導要領解説書に掲載されたことにより、今後のラグビー人口増加にも繋がることと期待される。このような中で、2019 年にはワールドカップの日本開催も決定している。ワールドカップを成功させるためにも、日本ラグビー界の重要課題として、2003 年に開幕し、現在 7 年目のシーズンを迎える、日本最高峰リーグであるジャパンラグビートップリーグにおける観客動員数増加が上げられる。

【研究目的】

本研究では、ラグビートップリーグにおける観客動員数に影響を与える要因を研究し、今後の観客動員数増加への課題を明らかにし、これからの観戦者増加への道筋を作ることまでを目的とする。

【研究方法】

本研究では先行研究に倣い、従属変数を「観客動員数」、従属変数を「観客動員数」、独立変数に「観客動員数を規定する変数」からなるモデルを作成した。SPSS for Windows17.0 を用いて、

相関分析を行い、「観客動員数」との相関関係の有無をみることにした。観客動員数を規定すると思われる要因として、以下の 7 つを取り上げることとする。「試合開催時の天候」「試合開催時の時間」「試合開催時の気温」「試合開催曜日」「試合開催月」「開幕戦」「座席数」である。研究対象は、ラグビートップリーグの 2004 - 2009 シーズンまでのリーグ戦とした。またその結果を用いて、トップリーグ事業部の福本氏にインタビュー調査を行った。

【結果】

相関分析により、観客動員数の増減に関して、以下の結果が得られた。悪天候（雨天）だと減少すること 2. 試合開始時刻が遅いほうが増加すること 3. 試合開催日が金曜日だと増加すること 4. 開幕戦は増加すること 5. 1 月の試合は増加すること 6. 座席数が多いほうが増加すること である。

【考察】

「雨」という観戦条件の悪さは、「観客動員数」を抑制する要因となることから、天候が悪い時には、天候の良い試合以上に手厚いサービスを行う必要があると考えられる。「開始時間」が遅くなると、「観客動員数」が増加するという結果が得られた。このことから、ナイターの試合を増加させることは観客動員数増加に繋がると考えられる。Jリーグにおいては負の影響を与えたとされる「平日開催」だが、ラグビートップ

リーグでは正の影響を与えることが明らかになった。金曜日の試合は全てナイターであり、自社の企業を社員同士で応援に来やすい環境であること、会場別入場者数が最多の秩父宮での開催が多いからではないかと考えられる。1月は、ラグビートップリーグにおいて、シーズン終盤戦となることから、観客動員数が増加したと考えられる。つまり、観客はストーリー性に喚起され、競技場に集まるものと考えられる。開幕戦には、例年注目カードが組まれていることや、協会がイベントを企画しているため、観客動員数が増えると考えた。座席数が多い競技場で試合を行うと、観客動員数が増加するという結果が得られたことから、地方にある狭い競技場で試合を行うより都市部に位置する整備された競技場に観客動員数が集まる傾向があると考えられる。